

国産飼料資源を活用した

黒毛和種去勢育成牛用の発酵 TMR

子牛市場では体重が大きく、外観のよい子牛が高値で取引されることから、育成期に濃厚飼料を多給し、過肥の状態で上場される子牛が多くみられます。しかし、過肥の子牛は、肥育農家に導入されてから2か月間程度の飼育直しが必要で、大きな経済的損失になります。そこで、群馬県畜産試験場では、農研機構畜産草地研究所や他県の公立研究機関との共同研究で、飼料用玄米、トウモロコシサイレージ、イタリアンライグラスサイレージなどの国産飼料が84% DM 占める発酵 TMR を設計し、育成牛の飼養管理技術体系を開発しましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 国産飼料が84%DM 占める発酵 TMR を給与する国産飼料多給区と濃厚飼料の配合割合を高めた発酵 TMR を給与する濃厚飼料多給区を設定し、4か月齢から10か月齢までの育成期に各区で8頭を供試して給与試験を行いました。粗飼料からの TDN の充足率は、それぞれ38%、25%です。
2. 自由採食における飼料摂取量や飼料要求率は両区で差がなく、育成期の体重推移は全国和牛登録協会が定める黒毛和種清浄発育曲線の上限を超えるほど良好で、10か月齢における胸囲と腹囲の差が30cm以上と肋腹が充実した肥育素牛を生産できました。
3. 育成期の飼料費は1頭当たり16,000円低減しました。
4. 肥育期における飼料は同一で自由採食とし、28か月齢まで肥育した国産飼料多給区の枝肉成績は、枝肉重量512kg、ロース心面積67cm²、BMS No.6.6、肉質等級4.0で、肉量、肉質とも良好な結果を示しました。



写真1 国産飼料84%で調製した発酵TMR



写真2 発酵TMRによる飼養試験状況



写真3 発酵TMRを給与した肥育牛の枝肉

☆ 活用面での留意点

肉牛育成用発酵 TMR 給与飼料として TMR センター等で活用できますが、飼料用玄米の消化性を高めるために粉砕する必要があります。詳細は、群馬県畜産試験場・酪農係 浅田 勉 (TEL: 027-288-2222)にお問い合わせください。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)